

協議第 12 号 平成 30 年度次世代型交通システム実証実験について

1. 実証実験概要

実証実験概要

【実証実験の目的】

- ・黒部市の公共交通網の整備レベルは一定水準にあるが、自家用車への依存度が高い状況にある。
- ・少子高齢化や社会情勢の変化など、交通を取り囲む環境は、今後も大きく変動していくことが予想され、様々な移動ニーズに的確に対応できる新たな移動手段の検討の必要性が増している。

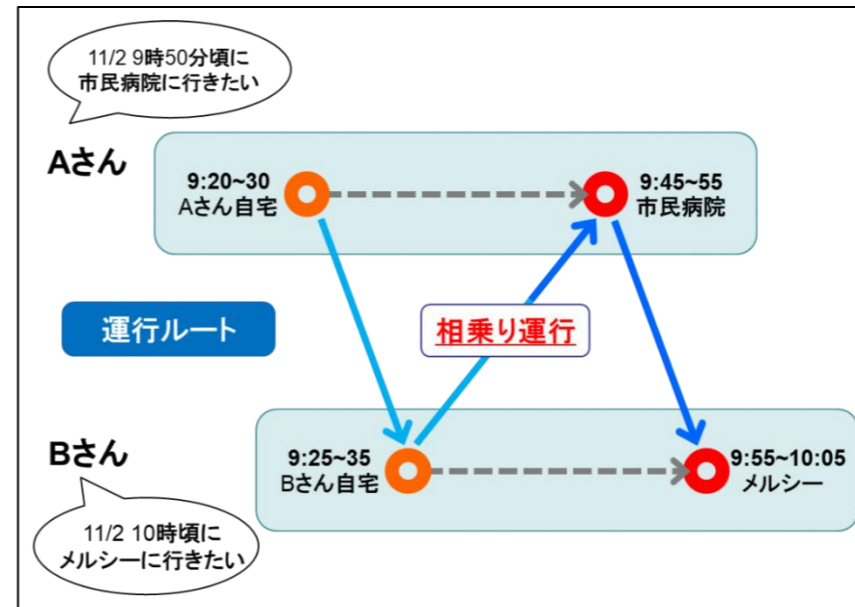
⇒相乗り型のタクシーサービスの実験を通して **需要が小さい地域に適した交通システムの可能性を探ることを目的**

【平成 30 年度の実証実験の概要】

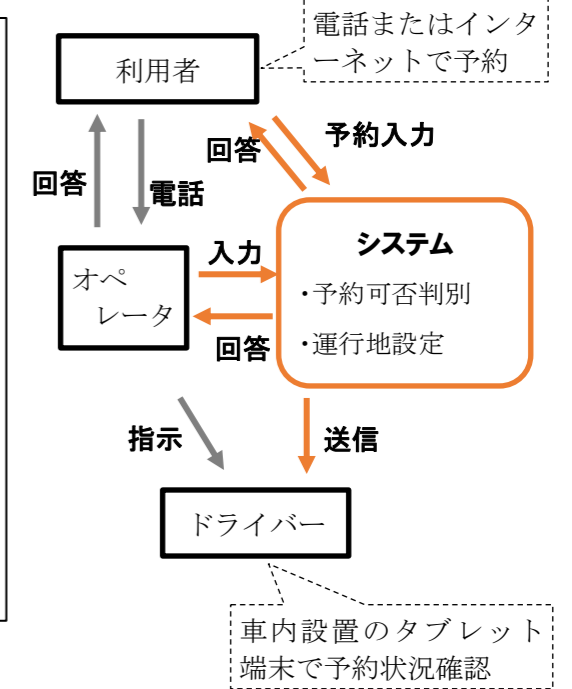
- ・平成 28 年度に実施した内容に改善を加えた再実験として実施。

項目	前回内容(平成 28 年度)	今回の内容
利用対象者	・石田地区住民 42 名 (移動実態調査協力者本人及びその家族)	・石田地区住民 107 名 (参加希望者を募り登録)
運行日・期間	・毎日運行 (11 月 3 日から 11 月 30 日)	・月曜日～土曜日(日曜日・祝日運休) (11 月 1 日から 11 月 30 日)
運行時間	・8:30～18:30 まで	・8:00～11:45、12:15～16:00
運賃形態	・実験期間中は無料とする	・1 回乗車 500 円を徴収する (料金収受は降車時に現金で行う)
予約方法	・アプリ・電話両方で予約受付を行う (いまずぐ便はアプリのみで予約受付)	・電話又は Web で予約受付を行う ・Web 予約希望者に ID とパスワードを配布
目的地設定	・利用者が事前に3箇所まで設定	・117 か所の目的地を設定 ※通院、買い物、食事、市役所への手続きなど、様々な場面で、利用
運行形態	おでかけ便	・乗車2時間前までの予約受付とする ・2時間前以降はキャンセルのみ受け付け、予約の変更は受け付けない
	いまずぐ便	・乗車 30 分前までの予約受付とする (運行なし)
	・車両通過予定時刻の 20～60 分前の予約受付とする	
	・おでかけ便の空き席に便乗する形態 ・おでかけ便の予約がない時間帯は予約不可とする	

◆相乗り型タクシーのイメージ

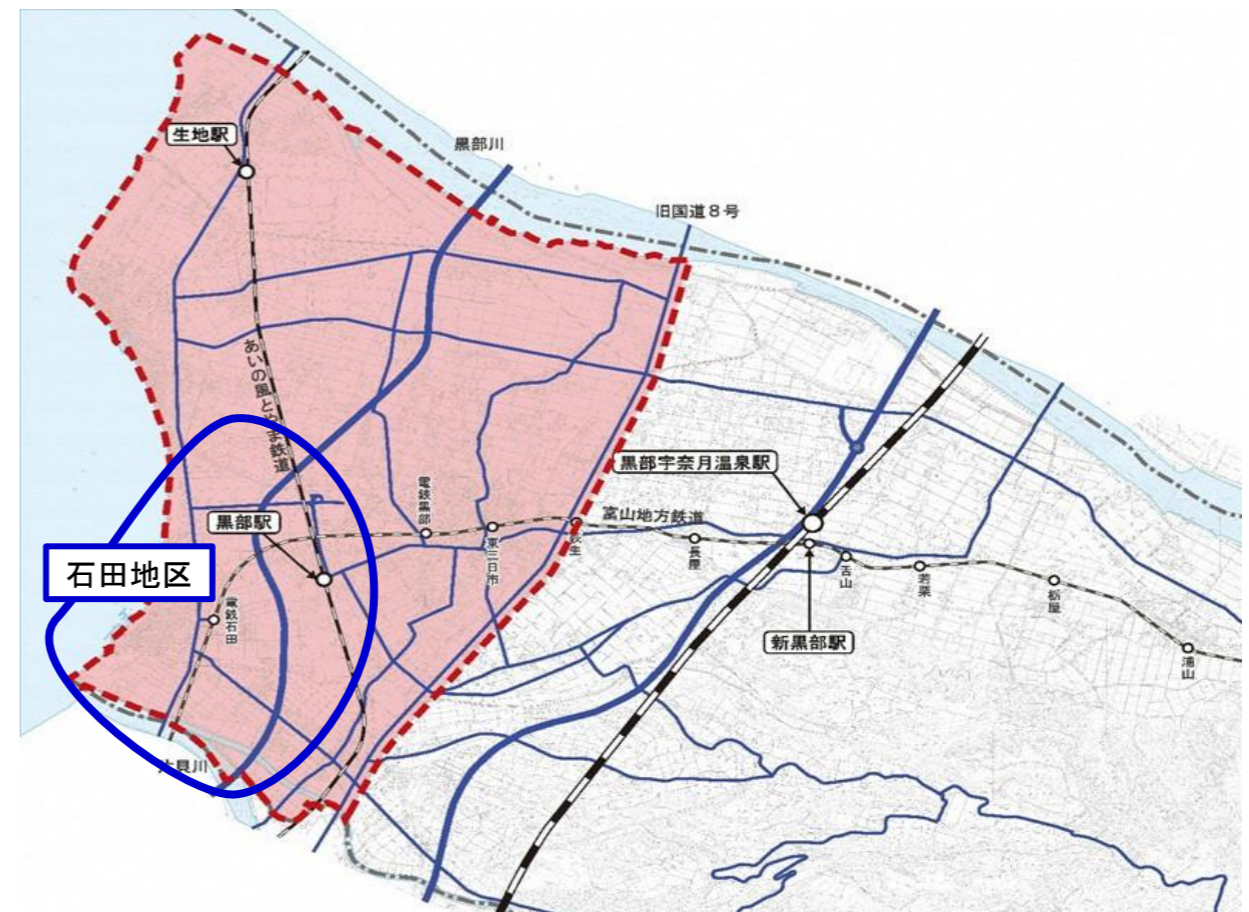


◆運行システム



◆運行エリア

石田地区から旧 8 号線海側の範囲 (平成 28 年度と同様の範囲)



2. 実証実験結果

実証実験開始までの地元説明会

- ・実証実験開始まで参加者登録を促進することや実証実験実施の周知を図るため、石田地区内の町内会を対象に 8 公民館で地元説明会を開催したほか、石田公民館で開催される各種行事の機会を捉えた説明会を開催した。

	町内会	開催日	時間	場所
1	犬山町内会	10月5日(金)	午後7時～	犬山公民館
2	浜石田町内会	10月9日(火)	午後7時～	浜石田公民館
3	新町町内会	10月10日(水)	午後7時～	新町公民館
4	岡町内会	10月11日(木)	午後7時～	岡公民館
5	立野町内会	10月12日(金)	午後7時～	立野公民館
6	町堀切町内会	10月15日(月)	午後7時～	町堀切公民館
7	堀切町内会	10月16日(火)	午後7時～	北堀切公民館
8	天神新町内会	10月17日(水)	午後7時～	天神新公民館

利用状況

実験参加登録者数：107名

期間中の利用者数：12名

延べ利用便数：42便（1人の1出発地～目的地の便数を1便でカウント）

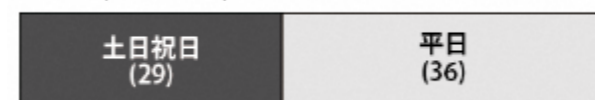
- ・以下に前回との比較を行いながら、利用状況の詳細を示す。

【利用日】

(前回)



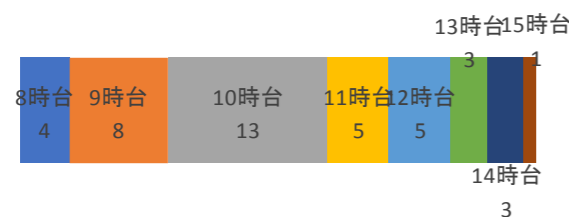
利用日(単位:便) n=65



- ・前回は日祝日も運行しており、平日だけで比較すると同じ便数（36便）が利用されている。

【利用時間帯】

(前回)

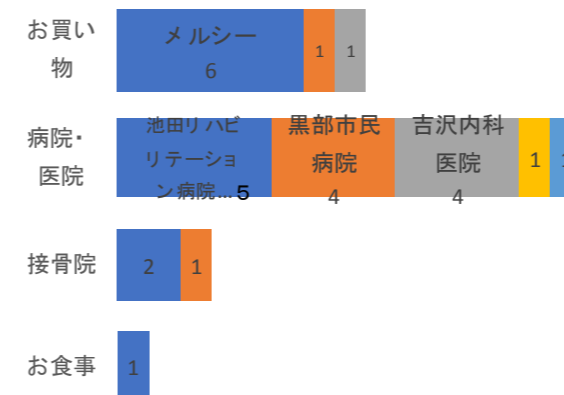


利用時間帯(単位:便) n=65

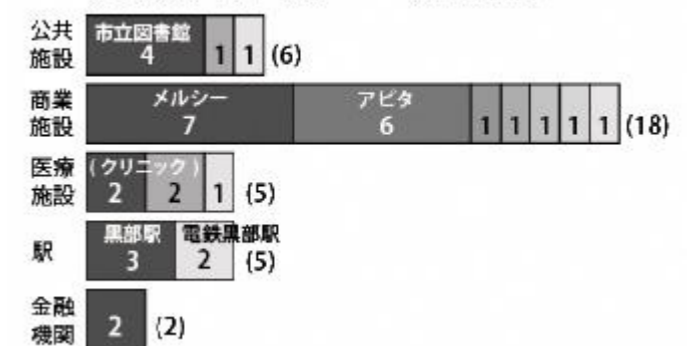


- ・前回約 20% の利用があった 16 時以降の運行がなかったことを考慮すると、若干利用率は上がったと考えられる。

【利用目的・目的施設】



目的施設(単位:便) n=36(自宅を除く)



- ・前回と比較して医療施設の利用が大幅に増加している。

【参加登録者の利用の有無】

登録者の利用状況(単位:人) n=42



- ・今回の利用者数は 12 名で参加登録をした人で利用しなかった人が多い。

3. 実証実験結果についての考察

- ・延べ利用便数は前回と比較すると少なくなっているものの、日曜・祝日の運行が今回はなく、運行時間も短縮したことを考慮すると同等の利用数であったと考えられる。
- ・また今回は運賃を徴収した中で、同等の利用があったことから、**若干利用が促進した**と捉えて良いと考えられる。
- ・利用目的施設では医療施設の利用が大幅に増えており、高齢者が利用しやすくするために予約方法を電話主体にし、予約時間短縮したことによる効果であったと思われる。
- ・一方で、参加登録者が前回より 2 倍以上多くなった中で、同等の利用数であったことは、本交通システムの需要が極めて小さいと考えられる。
- ・運行収支については、実験中の賃料収入が 21,000 円であり、収支率が約 1% であったことを踏まえると、**持続可能性に大きな課題**があり、需要が小さい地域での適正な交通システムにはなっていないと考えられる。